

阪神・淡路大震災から30年

1995年1月17日、十数秒の激震により、街は押しつぶされ、心には癒やしきれない傷が残り、私たちのくらしは大きく変わりました。

このような状況の中でも、私たちは決してあきらめず、前を向いて歩んできました。そこにはみんなで助け合い、被災した方々に寄り添い、支え合う優しさがあり、本当に大切なものを改めて知ることができました。

これからも私たちは、「愛と協同」の心を大切に、共に備え未来へつないでいきます。



生協がつなぐ支援

震災直後から、多くの地域コープ委員やコープサークルの皆さんによる募金活動、被災地に出向いての炊き出しが行われました。また、多くの生協の間が緊急物資をトラックに積み、神戸入りしました。

3月までに全国から駆け付けてくれた生協職員は、85生協・延べ1万人を超え、物資の輸送、店舗の復旧、商品の供給、食品工場の作業などで応援をいただきました。

これらの被災地支援の状況から、「被災地に生協あり」と社会的な評価も高まりました。



継承していくことを大切に



現在、私たちの街は震災の痕跡を探すことが困難なほど復興し、震災を経験していない世代が増えています。震災の記憶を風化させず、鎮魂の気持ちとともに、被災から得た経験や知識、防災への思いを継承することを大切に取り組んでいます。



震災特設サイトを開設

30年の節目の年を迎え、これまで行ってきた、『震災を次世代に継承する取り組み』を振り返り、今後の備えについて考える震災特設サイト「共に備える 未来へつなぐ」を開設しました。ローリングストックや各地のイベント情報などもこちらで発信しています。



組合員の皆さんに「備える」についてアンケートを実施

「備える」に関するアンケートや「ローリングストック」の認知度、実施状況に関する投票を行い、多くの大切な声をいただきました。「備える」一歩を踏み出していきます。

これから何を備えますか？	人数		人数
電源（バッテリーなど）	4063	ハザードマップの確認	2123
家族との連絡手段の確認	3763	飲料（水、ジュース類）	2029
トイレ（簡易トイレ）	3335	情報機器（ラジオ）	1969
緊急持ち出し袋	3288	調理器具（カセットコンロ）	1708
暖をとる（カイロ、ストーブ）	2892	あかり（ヘッドライト・ろうそく）	1589
食料（インスタント・缶詰）	2705	近所とのつきあい	1225
家具の固定	2545	ない	393
避難所・集合場所の確認	2446		



震災30年を考えるワーキンググループが活動

震災の記憶を語り継ぐとともに防災の意識を高めようと、震災30年を考えるワーキンググループを発足。各地区から組合員有志23人が集まりました。2025年1月は命を守る備えを身に付ける防災学習会「ふだんのくらしに防災を！」を開催し、62人が参加。2月に開催した「みんなで楽しむ防災フェスタ」には、約160人が参加しました。防災に取り組む9グループが活動を紹介し交流。また、落語家の桂吉弥さんが震災当時に混乱の中で落語を楽しんでもらったエピソードなどを語りました。

